

美術の時間に作品鑑賞
仲間の作品にコメントを

SAKURA



今こそ考える! 「いのち」のこと



◆12月8日は日本が太平洋戦争に突入した日です。

1941年のこの日、日本はハワイの真珠湾(パールハーバー)に待機中のアメリカ軍に奇襲攻撃を行い、事実上の宣戦布告をしました。歴史的な詳しいことはこれまでも社会科の授業で学んできたと思いますが、今年はこの開戦から80年の年です。テレビや新聞でもそのことを特集していることを知っている人もいます。

おりしも、みんなは12月2日に青年劇場の皆さんによる「きみはいくさに征ったけれど」を観劇しました。伊勢市生まれの詩人 竹内浩三さんに出会い、1944年にフィリピンに出兵し、終戦直前に戦死したことも知ることになりました。

この劇を通して、詩や文章を書くのが大好きで明るい青年が、望まない戦争で命を落としたということを知ってみんなは驚き、「まだまだ生きたかった」「やってみたくがあった」に違いないことを感じとっていました。そのことはみんなの感想カードを読んで受け取ることができました。戦争は「当たり前^{たいぎ}の日常生活」や「いのち」、「未来」までも奪うものであるということを知ってみんなは改めて実感したと思います。

先月、私の実父が他界しました。浩三さんと同じ宇治山田中学校(旧制の中学校で、今の宇治山田高校の前身でもあります。)に通っていた父は、浩三さんよりも9歳年下でしたが、やはり青春時代を戦争の中で過ごしました。英語がたくさん学ばなかったのに英語は敵性語(交戦国が使っている言語)ということで学べなくなっていたことや、日本の戦況が悪くなるにつれて、授業は打ち切りになり、明野の飛行場に作業に行くことが多くなっていったことなどを時々話してくれました。父は終戦の時(1945年8月15日)は15歳でしたので、兵隊に征くことはありませんでしたが、「あの戦争は、絶対に間違っった。」とつぶやくこともありました。

父が旅立った後、新聞広告の裏に書き残していた短歌を見つけて胸が熱くなりました。

「仔兔をやらうと約せし上級生の戦に征きて遂に帰らず」

(子ウサギを捕まえたらあげると約束をしてくれた上級生が戦争に行ったまま、ついに帰ってこなかった。)

父の地元の先輩が何人も戦死したことは聞いていました。母の兄弟も一人戦死しています。お国のための「名誉の戦死」などと言われても、大事な家族や友だちを失うことは、みんな辛かったに違いありません。私にも息子がいますので、大事な息子を戦争に征かせた当時のお母さんたちの気持ちを思うと涙が出てきます。この短歌は父からのメッセージだと思いました。

私たちは、辛く苦しい時代を乗り越えて、「いのち」のバトンをつないでくれた人たちのおかげで、今の「自分たち」や「時代」があることを忘れてはならないと改めて思います。劇に登場した主人公の宮斗は家にも学校にも居場所を見いだせず、生きる希望をなくしかけていたときに、浩三さん(幽霊?)に出会い、「いのちを生ききる大切さ」に気付き、前を向いたのです。

みんなにも、自分はもちろんのこと、自分の周りの人の「いのち」は何よりも大事にしてほしいです。「しんどいこと」や「悔しいこと」があっても、一生懸命頑張っている「自分」はもちろんのこと、「クラスの仲間」や「家族」、「自分につながっている周りの人」を「大事に思う気持ち」「優しい気持ち」をみんなが少しずつもてたら、一人一人の「一つしかない『いのち』」を傷つけるようなことはできないはずです。

たくさんの「大事ないのち」がつながって「大事ないのち」が生まれ、懸命に生きて、また未来につながっていくのです。そのことをみんなに伝えておきたいと思います。

◆先月の終わりに、愛知県弥富市で中学3年生の悲しい事件がありました。

まだ調査の途中段階で詳しいことは分かっていません。「分かり合えない何か」があったのかもしれません。でも、一つだけはっきりしていることは、人は「大事な生きるいのち」を奪ってはいけないということです。

思春期のみんなには、保護者や先生たちには「見えない」「見せたくない」「伝えにくい」思いがあるかもしれません。今、大人になっている私たちにも、その昔、いろいろなことがありました。嬉しいことも楽しいことも、失敗も腹の立つことも。それでも、いろいろな経験を乗り越えて、今ここにいます。だから、もしもみんなの中に、「ちょっとしんどい」と思うことがあったら、少しの言葉でいいから教えてほしい、頼ってほしいなあと思っています。

本校では、アンケートをとり、それをもとに担任の先生たちが面談を進めてきました。まだ話し足りない人もいるかもしれません。担任の先生ではない先生に話を聞いてほしい人もいます。前にも伝えましたが、「気になること」「心に引っかかっていること」があったら、どんな小さなことでも相談してほしいなあと、先生たちは待っています。保健室の中村先生、スクールカウンセラーの長瀬先生もちろん、待ってくれています。

◆学校で過ごすみんなの安全を守ることを優先したいと先生たちは思っています。

弥富市で起きた事件を踏まえ、これまではっきりとしていなかった「授業や部活動で『不必要な物』や『危険な物』は持ってこないようにする」という学校のルールについて先生たちで話し合いました。

そして、「カッターナイフや鋭利な刃物（刃先のとがったハサミなど）は持ってこない」ことを明示することにしました。美術科や家庭・技術科等、授業で必要な場合は、教科担当の先生からきちんと指示をしてもらいます。その指示がない限りは、必要がないものとして持ってこないようにしましょう。

学校として、特に文房具や教具は、「正しく使う」ということが大切であり、使い方の指導を進めようと考えてきましたが、保護者の皆様にもご心配をおかけしていると思いますので、今回、このように統一します。生徒のみんなも理解してください。

心が温かくなりました

大切なことはいつの時代も変わりません。

先日、伊勢宮川中学校区青少年健全育成協議会で標語の入賞者が決定しました。保護者の皆様にも応募いただき、たいへんうれしかったです。

心に響く標語がたくさんありました。優しい感性が伝わってきました。そこで、本校の生徒入賞作品のみ紹介したいと思います。

言葉には「力」があります。仲間を元気にする言葉がけができるみんなであってほしいです！



生徒議会の様子「自分たちで考えて動く伊勢宮中生であれ！」



美術部のギャラリー 作品のレベルアップに感心！



【保護者の皆様へ】

12月16日(木)13:40～校舎建物外周で校内駅伝大会を実施します。「参観希望確認票」は、明日までに提出願います。

★「ありがとう」伝えて届く 最高のプレゼント	3年	道清 花音
一言で 心つながる みんなの輪	3年	森 あかね
気をつけて あなたの書き込み ターゲット	3年	小西 陸
★ 今日一日の「うれしかったこと探し」は 宝探し	2年	小林 咲良
大丈夫？ 何も無くても 声をかけよう	2年	佐川 奈々心
一人じゃない 仲間はずっと いるからね	2年	堀井 菜々子
★「ごめんね」その一言で 変わる未来	1年	山本 杏
ソーシャルディスタンス 心のきよりは どうないで	1年	中西 優愛
ゆっくりでもいい 自分らしく 生きればよい	1年	堀本 瑠菜